

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770300329		
法人名	医療法人社団 五色会		
事業所名	グループホームたまよし		
所在地	坂出市加茂町194-1		
自己評価作成日	平成23年11月24日	評価結果市町受理日	平成22年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3770300329&SCD=320&PCD=37
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成23年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりの尊厳を尊重し、落ち着いて対応している。また、できる力を引き出すことに努め、入居者がしたいことをできるように配慮している。職員の配置も、認知症高齢者の経験され、併設の老人保健施設職員との交流も気軽にできるので、入居者・職員とも活き活きと過ごせるようにしている。地域の方との交流もあり、よい関係が築けるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

1、法人内の複数の医療福祉施設の一つで、連絡・連携が取れており、利用者・家族に健康管理・医療・安全性の面などに、安心感を抱かせている。
2、併設の老人保健施設と共に、ボランティアの訪問・合同のクラブ活動などで、利用者の一人ひとりの自主性・積極性を尊重しながら潤いのある生活が営まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者本位の理念とともに、地域の中で暮らしていけるように支援している。職員は、利用者の目線で考えていけるように話し合っている。	グループホーム独自の理念は、用意されていないが、年間目標として、今年は「みんな、仲良くしよう。」と掲げて、日々の介護実践に取り組んでいる。	ホーム独自の理念を作成し、独自の理念に基づいた年間目標を作成することが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(文化祭・夏祭り)やボランティアの方の交流会に参加したりしている。	地域の行事参加や保育園との交流がある。地域の方より、みかんをいただいたり、グランドゴルフへの参加の声かけがあったり、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の対応や実践したことなどを、運営推進会議で話し合ったりして、サービス向上に向けて取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、入居者の様子や対応に困っていることなどを話し合い、サービス向上に取り組んでいる。	2か月1回開催され、事業所の状況や取り組みについて報告し、話し合っている。	地域に密着した運営をするうえで、地域の代表者・自治会長をはじめ、幅広い立場の人に運営推進会議への参加・呼びかけは大切と思われる。事業所の多彩な取り組みの協力者・モニター役として、サービス向上につなげることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などで、地域の活動の様子や他のグループホームの様子等を話し合い、協力関係を築くようにしている。	主に運営推進会議の機会を捉え、情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を1か月に1回実施し、職員も利用者一人ひとりの状態等を把握し、見守りや連携ができるように努めている。	身体拘束防止委員会を毎月開催し、年1～2回の勉強会を開催している。全職員が正しい知識・理解をもって、介護実践できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で、高齢者虐待防止に関する理解を深め、遵守に向けた取り組みができています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について学び、入居者・家族・職員間で話し合う機会があれば支援するように努めている。また、契約時に説明するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者本位の理念とともに、地域の中で暮らしていけるように支援している。将来のことを含めて、疑問等を引き出し、十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者のからの意見や要望はもちろん、面会時等に、家族からの要望や意見を委員会等で話し合い、反映させるようにしている。	運営推進会議・面会時以外にも、毎月の利用料金を利用者家族が来居にて支払われる。この機会を利用して、近況報告し、家族より意見や希望をうかがって運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士が話しやすいように食事会などで話し合い、意見などを管理者に報告するように努めている。職員の気づきやアイデアを、運営に取り組むようにしている。	定例の職員会議はないが、日頃から職員同士で意見交換しやすい関係づくりがなされている。また、2～3か月に1回は、食事会を設け意見を聞いて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら、職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。体力など就業面で問題なければ、いつまでも働けるようにしてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等の機会を、段階に応じて、なるべく多くの職員に受講できるようにしている。また、勉強会等で発表してもらい、研修資料等を閲覧できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	坂出市グループホーム連絡会やグループホーム協会の相互評価事業等で、交流の機会があり、サービスの向上に向けて取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の気持ちを受け止め、安心して過ごしていただけるような環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談される家族の立場にたって、これまでの経緯について、ゆっくり話を聞き、ニーズに対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思いを大切に、必要なサービスにつなげるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の得意分野を發揮してもらい、ともに過ごし支えあう関係を築いている。音楽の演奏をしていただいたり、洗濯物を干していただいたり入居者と一緒に行うことができるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に入居者の様子を伝え、家族の方と協力して良い関係を築いていけるための支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の場所へ買い物等の外出に出かけたりして、関係の継続に努めている。	利用者の馴染みの人や場との関係を尊重し、要望があれば家族の協力を得ながら、思いに添えるよう支援している。買物は外出したり、定期的に事業所内でできる支援がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係の理解に努め、孤立してしまわないように、支援をしている。カレンダーを作成したり、共同で作業できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、本人・家族の経過を見守ったり、関係者等の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の方との日々の関わりの中で、職員同士が、思いや気づき等で、本人の希望や意向をそれとなく確認したり、家族から情報を得たりしている。(入浴時等の入居者がリラックスされているときなど)	就寝前や入浴時など、利用者がリラックスされている時を利用して、一対一でゆっくりお話をさせていただいて、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で、入居者本人・家族となじみの関係を築きながら、継続的に把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活リズムを把握して、できる力を暮らしの中で発見できるように、職員全員がチームとして把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、本人、家族、必要な関係者と話し合い、よりよく暮らしていただけるように努めている。	介護計画のカンファレンスは行っていないが、モニタリングはケアマネジャーが行っている。職員の意見・介護記録を考慮し、ケアマネジャーが介護計画を作成している。利用者家族の意見・要望は、面会時を利用し、計画に反映している。	利用者・利用者家族を始め、関係職員全員で意見交換・カンファレンスを行い、介護計画の作成に活かすことが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に記入し、職員間で情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、ニーズ等に柔軟に対応している。また、通院や送迎の支援は、可能な限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	坂出市介護相談員やボランティアに来ていただいたりして、地域の人の力や場を借りて支援できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医師でのかかりつけ医や希望の病院へ受診できるように支援している。	利用者・家族の希望される医療機関への受診が受けられるよう、家族と協力し支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と入居者の健康管理や観察の視点等を話し合い、関係を密にし、身体状態の変化があった時は、伝えるべきポイントを理解して、連携を行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	紹介状など入院時に混乱が生じないように、看護要約等で、本人の情報や特徴を伝えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、随時意見を確認しながら、医療機関と密に連携を図り、対応している。終末期に関して、事業所として、「行うこと、行わないこと」の項目を確認している。	看取りの経験はない。重度化した場合や終末期には、管理者からグループホームの実態を説明している。その結果・方針を全職員が共有し、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について、定期的に勉強会に参加し、訓練が行えるようにしている。年間2回、実施予定にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、併設の老人保健施設と合同で消防の避難訓練を行っている。他の災害(地震)について、避難や備えについて話し合い、実践的な取り組みを考えていく必要がある。	併設の老人保健施設と合同で、昼夜を想定して、防火避難訓練を行っている。地域の避難所として申し出ており、非常食の備蓄・井戸水の用意など実践的な取り組みがうかがわれる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を守り、プライバシーの確保を徹底し、自尊心を傷つけないよう言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの尊厳を守り、自尊心を傷つけないよう日常的な確認と改善に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人が日常生活の中で、希望や願いを表情などで理解し、支援できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合に当てはめるのではなく、入居者一人ひとりの持っているペースに合わせた対応を、心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別に好みや意向を把握し、その人らしさを保てる支援をしている。馴染みの美容院の利用など、希望にあわせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備で、コップやおしぼりを取りに行くことや片づけでおしぼり巻きをしてもらったりしている。できる方には、食器の片付けもしていただいている。食事の調理、盛り付けは、おやつ作り等で、できるようにしている。	併設の老人保健施設で、食事のほとんどが用意される。月1~2回手作りおやつを作っている。畑で取れた野菜もメニューに出される。できる方は下膳をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックし、むせたり、飲み込みが悪い入居者には、トロミをつけて対応したり、一人ひとりの好みに応じた食事ができるように支援している。		

グループホームたまもよし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前に嚥下体操を実施し、できる方は声かけや見守りをし、できない方は職員が手入れの支援をしている。歯科の訪問も時折あり、アドバイスをいただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の様子などを察知し、トイレでの排泄を大切に、一人ひとりに合わせて対応している。夜間転倒の恐れのある入居者の方へはポータブルトイレを利用してもらったり、見守りをして対応している。	トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ・オムツ類・尿とりパットは、利用者の排泄状況に合わせて選択している。トイレが各居室にあり、流量を調節したり、掃除する時の様子で、利用者に確認したりして排泄の状況・把握をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、散歩等の適度な運動をしてもらったり、積極的に取り組んでいる。食事のバランス・薬の調整も栄養士・医師と相談し、個々に合わせて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者がくつろいだ気分で入浴できるように、入りたい日に入浴できるように対応している。入浴が嫌いな入居者には、気分が良い時に声かけ・誘導など個別に対応している。	利用者の希望に応じて、日勤帯で入浴支援している。利用者が拒否する場合でも状況に応じて、声かけ・誘導などを行い入浴介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が安心して休息できるように、日中の活動を促したり、生活リズムを整えるように支援をしている。眠剤を飲まれている方には、日中の活動の妨げになっていないか、確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認を行い、誤薬や飲み忘れがないように取り組み、職員は薬の内容について、把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野(ピアノ・歌など)で、一人ひとりの力を発揮してもらえるように、仕事を頼んだり、感謝の気持ちを伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方に協力していただきながら、外出の機会ができるようにしている。保育園の夏祭りや朗読会の交流会では、地域の方やボランティアの方に協力していただいている。	天候の恵まれた日は、近くの神社に散歩される利用者もいるが、併設の老人保健施設に回廊式の散歩コースがあり利用している。家族の方に協力をいただきながら、希望に添った支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、少額のお金を持っている方もいるが、管理が困難な方には、買い物をするときに所持してもらい、支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方は、本人が好きな時に使用できるように支援している。設置場所も、離れているため、プライバシーの配慮もできている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、季節感のある花など生け、居心地良い空間を整えるようにし、亀やめだか等の動物と触れ合えるようにしている。	玄関ホールには文化祭の出展品が飾られ、居間には手作りの大きなカレンダーがあり、行事予定が書かれている。窓際には、めだか・亀が飼われ、ソファが置かれている。利用者は座って庭を眺めたりして、自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室前の廊下にソファを置き、そこから、庭園を眺められるよう少人数でもくつろげるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーを大切にしながら、思い出の品物や写真などが持ち込まれ、利用者の安らぎが感じられるように、家族に協力してもらいながら、居心地よく過ごせるように配慮している。	居室は清潔に保たれ、トイレ・洗面台・ベッド・収納家具・テレビが用意されている。それらを用いて、思い出の品・写真などを飾り、好みに応じた居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者がトイレの場所、流すボタンやゴミを捨てる場所などに、目印を付けて、自立した生活ができるように配慮している。職員も、入居者が認識間違いや判断ミスがないように工夫して対応している。		